

東海道の要衝・小田原を拠点にした北条五代 関東に睨みをきかせた街道屈指の名城

写真協力 小田原市 南足柄市 愛川町



小田原城(天守閣の北西)。JR東海道線を挟んだ住所にある八幡山古郭東曲輪からの眺め。この辺りは北条氏の頃の城の中心地だったと考えられ、周辺からも数々の遺構が発掘されている。



秀吉との戦いに備えて整備された総構。約9kmにわたり土塁と空堀で城を囲んだ。戦国時代最大の城郭であり、関東最大の街だった。(OG成瀬京司)



江戸時代後半に出された「日本古城絵図」に載る「相州小田原城図」。図の上方面で、東から西にかけて東海道も描かれ、街道に臨む城下町の様子がわかる。(国立国会図書館蔵)

戦国大名を代表する北条早雲

100年近くにわたり関東に勢力を拡大

戦国時代末期、関東のほぼ全域を支配した小田原北条五代の祖が北条早雲(宗瑞)である。

甲斐の武田氏や越後の上杉氏、駿河の今川氏などの大名たちが元々領していた土地を基盤としていたのに

対し、新たに進出した地で領国支配を確立した北条氏は、戦国大名らしい大名といえるだろう。

備中伊勢氏出身の早雲は幕府の奉行人だった。長享元(1487)年、今川氏の内紛を調停するため駿河に入り、その後、伊豆の堀越公方の子、足利茶々丸を追い出し伊豆国を押さえる。韮山城に拠った早雲は、次に



尾根に築かれた小田原城。江戸時代になると海側平野部に中心は移り尾根側の遺構が残った。小峯御鐘ノ台大堀切は深さ10mを超える全国最大級の空堀。



永禄4(1561)年に氏政が鎌倉円覚寺に出した朱印状。不法を行う者がいれば直ちに上告せよという内容。上杉謙信の小田原攻め前の緊迫した状況がうかがえる(神奈川県立歴史博物館蔵)



歴代当主が使用した虎を配した印判。印文の「禄壽應穩」には財産と生命が穩やかであるようにとの願いが込められているという。ほかにもいくつかの印判があった。



秀吉から切腹を命じられた4代氏政の弟の氏綱の墓所。江戸時代につくられたもので、手前の石で目刃したという。いまは賑やかな街の一角に残る。

大森氏の小田原城を奪い関東進出への足がかりとする。当時の関東は、下総国古河を拠点とする古河公方と、扇谷・山内両上杉氏の勢力が拮抗し、混沌としていた。
東海道を臨む交通の要衝、小田原を拠点に早雲は、相模国守護の三浦氏を滅ぼし、伊豆と相模国三浦郡を支配。小田原城の整備も進めるが、自身は韮山に留まり、名実ともに小田原を北条氏の拠点としたのは早雲没後、嫡男の氏綱であった。
2代氏綱は鎌倉時代の執権一族にあやかり北条に改名する。虎印判状などに代表される印判を使った命令系統を整え、領国も武蔵、駿河、下総まで拡大。

3代氏康は大規模な検地を行い、税制改正を実施するなど支配体制を強化した。城下町の形態も整えられ、勢力範囲も上野まで広がった。
4代氏政は謙信や信玄の小田原攻めを退け、5代氏直は下野にも進出、支配領域が最大となる。総延長9キロの総構えを持つ難攻不落の小田原城を拠点に関東の覇者となった。しかし、天正18(1590)年豊臣秀吉率いる約21万の大軍に城は包囲され、約100日の籠城の結果氏直は降伏。氏政と弟の氏照は切腹し、助命された氏直も翌年高野山で病没する。こうして100年近くに及んだ小田原北条氏の歴史は幕を閉じた。



小田原北条初代の早雲庵宗瑞。北条早雲の名で知られるが、自身は北条を名乗っていない(小田原城天守閣蔵)



箱根湯本に建つ早雲寺は大永元(1521)年に氏綱によって創建された北条氏の菩提寺。秀吉の小田原攻めでは本陣が置かれた。北条五代の供養塔も。

SPECIALTY



小松石

真鶴町や湯河原町を産地とする安山岩。伊豆石とも呼ばれ、源頼朝が開いた鎌倉の街づくりに使われた歴史ある石材。江戸城築城の際にも使われ、幕末には海防のためにつくられた台場にも使用された。現在はその業しきから、墓石や花瓶などの小物に加工されている。「かながわの名産100選」の一つ。



上杉、武田も退けた城 秀吉の前に開城する

天文21(1552)年、3代氏康に攻められた関東管領の山内上杉憲政は越後の長尾景虎(上杉謙信)を頼った。

謙信は関東に進軍し、10万もの大軍で小田原城に迫るが大きな戦もなく退去する。その後も謙信は幾度となく関東に出兵し、北条氏と干戈を交えている。

甲斐の武田信玄もまた北条氏の手強いライバルだった。

永禄11(1568)年、信玄の駿河侵攻により甲駿相の三国間で結ばれていた同盟は破れ、北条も武田と交戦の構えを見せる。翌年、関東に進軍した信玄は小田原城を包囲するが陥落は難しいと悟り、長居をせず、城下に火を放つに留まり退去した。

帰国の途についていた武田軍を迎え討つべく、氏康の三男氏照と四男氏邦が三増峠で待ち受けた。しかし、武田勢の逆襲により北条方は多数の死者を出す。熾烈を極めた三増峠の戦いは双方で4000人を超える死者を出したと『甲陽軍鑑』は伝える。



永禄12(1569)年に北条氏と武田氏が衝突した三増峠の戦いを描いた陣立て図。多数の死者を出した北条方は以後、守りを固め、武田方は駿河攻めに乗り出す(神奈川県立歴史博物館蔵)



愛川町の三増合戦場碑が立つ広場では、慰霊のため毎年「三増合戦まつり」が10月の日曜日に開催されている。

小田原北条と 上杉、武田、 豊臣との戦い

SPOT



立ち寄り所

愛川町郷土資料館

愛川町の歴史や自然に関する資料を保存・公開する資料館。三増峠の戦いに関する展示のほか、修験道の山として知られる八音山や、愛川町の動植物についても学ぶことができる
【住所】愛川町半原 5287 (県立あいかわ公園内) 【電話】046-280-1050
【開館】9:00 ~ 17:00、月曜休館、無料



3代氏康が氏政に家督を譲った永禄2(1559)年の2年後、長尾景虎が小田原を攻める。10万もの大軍で攻めるが城は守られ、帰途、鎌倉で謙信は上杉憲政から「上杉」の名字と関東管領職を譲られた (CG 成瀬京司)



天正17(1589)年、真田氏の支配下にあった名胡桃城(群馬県みなかみ町)を強奪したことで北条氏は天下人秀吉の討伐対象となる。

翌春、秀吉自ら兵を率いて小田原城を包囲。4代氏政と5代氏直親子は全長9キロに及ぶ城の総構を整え、籠城の構えで迎え討つが、西の防衛拠点である山中城(静岡県三島市)が半日で落ち、関東の各支城も次々に陥落。さらには日突然、西の山に石垣の城が出現する。

ひと晩で築かれたという伝承から一夜城の名を持つ石垣城だが、実際は80日ほどかけて築かれたもの。完成後に周囲の木を伐り、突如城が出現したように見せかけたのである。

総石垣の城を目の当たりにした北条氏の衝撃は相当なものだったろう。城の四方を囲んだ総勢21万の大軍を前に、ついに氏直は開城を決意、降伏する。

現在、公園として整備された石垣山城址を訪ねると、その本格的なつくりに驚かされる。眼下に広がる小田原の街を望みながら、北条五代に思いが馳せる。



石垣山一夜城は延べ約4万人が約80日間で築いたもの。総石垣の城間東初で、近江の石工集団・穴太衆によって築かれたという。関東大震災でもほとんど壊れなかった本格的な城。



秀吉も見ていたであろう、一夜城からの眺め。この世の春を謳歌する天下人秀吉の姿が目に見え。周辺は国指定史跡、展望台なども整備。

SPOT



立ち寄り所

大雄山最乗寺

大雄山最乗寺は応永元(1394)年現在の伊勢原市出身の了庵慧明禪師によって開かれた古刹。福井県の永平寺、観音の総持寺に次ぐ格式のある曹洞宗寺院。創建時に道了という僧が天狗になったという伝説も。参道の樹齢500年以上の杉並木や季節ごとに桜やアジサイなどが楽しめる
【住所】南足柄市大雄町 1157
【電話】0465-74-3121 <http://www.daiyuzan.or.jp/>



足柄城があった足柄峠からの眺め。箱根越えが整備される前の東海道で周辺には石畳の道など見所が多い。江戸時代は脇街道(矢倉沢往還)として利用された。



秀吉勢は東海道や古東海道の足柄路、伊豆半島を経て小田原に迫る(左)。東海道沿いの山中城(左上)は北条氏が得意とした障子堀。現在、遺構が公開されている。備え西の要の城だったが半日落ち。足柄城(右下)もほとんど開城。陸から海から押し寄せる大軍に北条方はなす術もなかった(CG 成瀬京司)



天守閣の耐震工事に伴い 刷新された展示内容

小田原城の前身は室町時代に西相模を支配した大森氏が築いた山城である。北条氏が滅び、小田原攻めに参戦していた徳川家康に従った大久保氏が城主となり、近世城郭に改修した。

大久保氏が改易されて城は破却されるが、稲葉氏が入部し再築する。再び大久保氏が城主となり、小田原城は関東防衛の要として、以後、明治まで東海道に睨みをきかせる。

明治になると多くの建物が解体された。二の丸に御用邸が建てられたものの大正12(1923)年の関東大震災で石垣などがほぼ全壊。江戸時代の姿は失われてしまう。
昭和9(1934)年、隅櫓が再建され、その後、本丸や二の丸、三の丸が国の史跡に指定された。城址公園として整備され、昭和35(1960)年に市制20周年を記念し現在の天守閣が再建される。

江戸時代からこの地を襲った地震により、天守閣は何度も倒壊している。そのたび再建されてきたが、宝

永期(1704~1711)の天守閣を参考に、高欄付きの廻縁を追加して復興された。

内部は北条氏や小田原城の歴史が学べる資料館となっている。平成28(2016)年に終えた耐震工事に機に展示内容や設備も刷新され、最上階には江戸時代に祀られていたという武士の守護神・摩利支天像を安置した空間も再現された。展望デッキからは海、山、街並みが360度で楽しめ、秀吉が一夜城を築いた石垣山も西方に望むことができる。

北条五代時代の遺構は少ないが、秀吉の襲来に備えてつくられた総延長9キロの総構の一部が城の北西方向にある城山公園に残る。特に、幅が20メートル以上もある空堀の「小峯御鐘ノ台大堀切」は、戦国時代の小田原城のスケールを実感できる貴重な場所だ。城址公園内にも規模は小さいが空堀も残る。

天守閣を囲む城内の常盤木門や銅門、馬出門なども昭和から平成にかけて復元・復興され、江戸時代に近世城郭として生まれ変わった小田原城を体感することができる。



平成の大改修で天守閣内の展示も大幅リニューアル。5フロアある各階では、北条氏や小田原城に関する歴史を貴重な資料や映像などで学ぶことができる。

復興された 江戸時代の 天守閣



小田原城天守閣遺構からはまさに絶景が、北に丹沢の山並み、南に相模湾、東が小田原の市街地、西に箱根山や真鶴半島、伊豆半島を望む。秀吉が築いた石垣山も目の前
【入館料】一般500円【開館】9:00~17:00(入館は16:30まで)

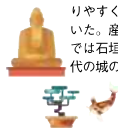
S P O T

立ち寄り所



小峯曲輪北堀

城址公園内に伝わる、戦国時代の北条氏によって造成された空堀と土壁。堀の幅は20mほど、深さは5mほどで、韮徳二宮神社に臨む場所にある。関東の土(関東ローム層)は滑りやすく、空堀でも防御性に優れていた。産出する石も少なかった関東では石垣の城は稀であった。戦国時代の城の原型を留める貴重な遺構。



小田原城歴史見聞館

小田原城や小田原の歴史を「北条五代ゾーン」「江戸時代ゾーン」「小田原情報ゾーン」に分け、紙芝居や人形芝居、ジオラマや街並みのセットなどで楽しく学べる施設。近隣の観光名所の情報も入手できる【開館】9:00~17:00【入館料】一般300円(天守閣、常盤木門SAMURAI館との3館共通券は一般700円)



平成9(1997)年に復元された二の丸に通じる銅門(上)は銅板の装飾があることからその名が。本丸の正門(下)は昭和46(1971)年の再建。小田原城でも大きく堅固なつくり。2階には甲冑などを展示する「常盤木門SAMURAI館」が。



天下統一を目指し小田原を包囲した秀吉の戦いを記念した「一夜城まつり」。10月中旬の日曜日に石垣山一夜城歴史公園で開かれ様々な催しが行われる。

小田原ちようちん夏まつりは地元小学生がつくった約2000個の小田原ちようちんに明かりが灯され、ちようちん踊りなどで盛り上がる。7月下旬の土日開催。



小田原で開催される数々のイベントの中でも最大規模を誇るのが「小田原北條五代祭り」。鉄砲隊や手づくり甲冑隊の武者隊による勇壮なパフォーマンスが北条五代の繁栄を讃える。



城址公園内の本丸広場、常盤木門の1階にある「甲冑・忍者の館!小田原城情報館」では甲冑や打掛、忍者衣装の貸出も行なっている。



忍者の里「風魔まつり」では、手裏剣投げや吹き矢などの忍者体験が楽しめるブースも設置される。8月下旬の土日に小田原城址公園二の丸広場で開催。



甲冑・兜を身に着け武将になったり、打掛や忍者などの衣装をまわったりする「コスプレ体験」はタイムスリップ気分が味わえる思い出。着替はスタッフが手伝ってくれる【時間】9:30~16:00(最終受付は15:30)【料金】一般300円(中学生以上)

その他おすすめスポット&情報

小田原名物のアジ料理

小田原名産のアジ。食べ方は様々だが「鈴廣かまぼこの里」にある「千世倭樓」ではメニューに、卵でとじた「小田原つくし丼」(2268円)が人気。1日限定10食の懸崖(仕入によってない場合も)【営業】11:30~16:00、夜は予約のみ、無休 <http://www.tiowa.jp/>



伊勢屋の豆大福

「小田原宿 なりわい交流館」の隣にある老舗和菓子店の豆大福は地元の人から愛されている味(156円)。さっぱりとした甘さが評判【住所】小田原市本町3-6-22【電話】0465-22-3378【営業】9:00~17:00、木曜定休 <http://www.daifuku-iseya.com/>



きんじろうカフェ

報徳二宮神社内にあるカフェ。本格イタリアンコーヒーをはじめ、二宮尊徳が好んで食べたと言われる「異汁」(594円)もいただける【住所】小田原市城内8-10【電話】0465-23-3246【営業】11:00~16:00、無休 <http://www.hotoku.jp/kinjiro-cafe/>



ミニコラム

小田原から足を延ばして湯河原の名所を訪ね歩く

小田原の先にある湯河原温泉。万葉集にも詠まれた古の湯で、長く湯治場として親しまれてきた。江戸時代には「温泉番付」の東の小結にも選ばれている。明治頃からは、夏目漱石や芥川龍之介といった文人が静養や執筆のために滞在し、創作の地としても名を馳せることとなる。いまでもこの温泉地として知られるが、かつて湯河原は源平合戦の舞台にもなった地。鎌倉幕府創立に貢献した土肥平の菩提寺「城隍寺」をはじめ、日本一広い足湯がある「万葉公園」や湯治場風情が残る「湯元通り」、名瀑「不動滝」など名所も多い。駅前広場が整備され、手湯も新設された。



JR湯河原駅前に立つ土肥実平夫妻像。10世紀頃、関東に勢力を広げた平氏一族、小田原の一部も領した(写真提供:湯河原町)

散歴歩



Course 5

東海道の要衝・小田原を拠点にした北条五代おすすめコース

徒歩
JR小田原駅〜駅前通り商店街〜小田原城(天守閣、銅門、常盤木門、小田原城情報館、小田原城歴史見聞館など)〜小峯曲輪北堀〜報徳二宮神社(きんじろうカフェ)〜かまぼこ通り〜北条氏政・氏照の墓所〜JR小田原駅

城址公園内に鎮座する報徳二宮神社



立ち寄り所 かまぼこ博物館
小田原市郊外の風景にある「鈴廣かまぼこの里」に併設された博物館。小田原名物のかまぼこの歴史や作り方が学べ、製造工程を見学したり、自分がかまぼこを手づくりしたりすることもできるかまぼこの殿堂【住所】小田原市風景245【電話】0465-24-6262【営業】9:00~17:00 <http://www.kamaboko.com/sato/>



また、夏には「忍者の里『風魔まつり』」が開かれる。一代で戦国大名になった早雲のもとでは風魔太郎を代表とする乱破が活躍したと伝わる。小田原郊外に位置する風祭は、風魔一族の里だったという。さらに園内には、二宮尊徳を祀る報徳二宮神社が鎮座するなど、盛りだくさんの小田原城址公園である。



現在の小田原市栢山に生まれた二宮尊徳を祭神とする報徳二宮神社は明治27(1894)年の創建。城址公園の一角に鎮座し、尊徳がよく食していた異汁(大豆をすりつぶした汁)がいただけるカフェも。

季節ごとに祭りを開催おもてなしの小田原城

小田原城をバックに、武者姿や忍者姿でする記念撮影が人気だ。城址公園内に建つ小田原城情報館には鎧兜や打掛などが用意され、有料でコスプレを楽しむことができる。小田原は祭りが多い街でもある。城址公園を中心に、季節ごとに「小田原梅まつり」や「小田原ちょうちん夏まつり」などが開催されている。なかでも最大のイベントが「小田原北條五代祭り」である。毎年5月3日に開催され、武者や鉄砲隊の出陣セレモニーに続き、武者隊やまち衆隊、市内学校のブラスバンド部などで構成された吹奏楽隊が市内を賑やかに練り歩く。

600もの農村を
貧困から救った復興の神様

二宮尊徳

にのみやそんとく



栢山にある尊徳の生家。尊徳の生涯や教えを知る記念館が隣接【住所】小田原市栢山 2065-1【電話】0465-36-2381【開館】9:00～17:00、年末年始休館【入館料】一般 200円

「経済一辺倒もだめ、道徳一辺倒でもだめ、道徳経済が一体となった社会でなければならない」と説いた尊徳の思想はいまの世にこそ必要な教えであろう(報徳二宮神社蔵)



小田原城址公園内に鎮座する報徳二宮神社境内に立つ金次郎像。薪を背負い本を読む姿は勤勉の象徴であった。かつては多くの学校にあった。

二宮尊徳(1787〜1856、幼名・金次郎)は酒匂川に臨む小田原東部の栢山村の農家に長男として生まれる。比較的豊かな家だったが度重なる川の氾濫で田畑が流され、父母は早くに死去。16歳の頃には一家離散という憂き目に遭う。

親戚の家に預けられ苦勞を重ねるが、逆境にもめげず稲の捨て苗や菜種を空き地に植えるなど、「積小為大」(小を積んで大となす)を実践する。収益を蓄財し成人する頃には田畑を買い戻し、家の再興に成功した。

独学で数理や土木、建築技術なども学び、苦勞の中で会得した思想と実践論で、小田原藩家老の家計再建にも成功。その才能と行動力が藩主大久保忠貞に認められ、財政難に苦しむ栃木の桜町領の再建が託される。

10年の難事業だったが見事成功した尊徳のもとには支援依頼の要請が相次いだ。復興事業、飢饉救済の専門家としての名声を得、晩年には幕臣にも取り立てられる。日光をはじめとする幕府領の再建に尽力し、手ほどきを受けた村は600にも達するとう。

尊徳は「一人の心の荒廢が開けたならば、土地の荒廢は何万町歩あるうとも恐れるものはない」と述べている。人の心や意識の改革、開発こそが重要であり、心の田んぼを耕す「心田開発」という言葉も使っている。

尊徳の教えは、徳を以って徳に報いる「報徳思想」と呼ばれる。多くの人の手本となり、豊田佐吉や松下幸之助などの実業家にも影響を与えた。尊徳は、明治以降の日本の発展に大きく寄与した一人といえる。